

# 令和4年度病虫害発生予察情報 予報第12号（12月）

令和4年12月15日  
発表：福島県病虫害防除所

## 1 野菜・花き

作物名	病虫害名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並だった(±)。	多発すると防除が困難になるので、発病初期から防除を実施する。
	土 壌 病 害 (萎黄病、炭疽病)	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並だった(±)。	発病株及び発病が疑われる株は、見つけしだい抜き取り、ほ場外に持ち出すなど適切に処分する。
	アブラムシ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並だった(±)。	低密度時から薬剤防除を実施する。
	ハダニ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並だった(±)。	低密度時から防除を徹底する。 薬剤感受性が低下しやすいので、薬剤の効果を確認し、気門封鎖剤も含めて系統の異なる薬剤をローテーション散布する。 天敵製剤（ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ）を放飼している場合は、ハダニ類の発生状況に応じて、天敵に影響の小さい薬剤を選択する。
	コナジラミ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並だった(±)。	低密度時から薬剤防除を実施する。
	アザミウマ類	全 域	—	やや多い	発生ほ場割合は平年より高かった(+)	発生状況をよく確認し、低密度時から薬剤防除を実施する。

注) 予報の根拠の中で (+) は多発要因、(—) は少発要因、(±) は平年並要因であることを示す。

### ○注意が必要な病虫害

イ チ ゴ	<p><b>■萎凋病、萎黄病、炭疽病</b></p> <p>無病地からの採苗、育苗を徹底することが基本的対策となるため、ほ場で発病が確認されている場合は次年度に向けて以下の対策を実施してください。①育苗用土壌やポット等の資材を一斉に更新する。②炭疽病は水媒伝染するため、親株を育苗する際は雨よけ育苗や高設育苗を行うとともに、頭上からの灌水を避ける。③発病株、または発病が疑われる株は、見つけしだいその周囲の株と土を含めて丁寧に抜き取り、適切に処分する。④これらの病気が発生したほ場で連作せざるを得ない場合は、土壌消毒を実施する。</p> <p>なお、イチゴの土壌病害の簡易検定方法について、病虫害防除所ホームページの病虫害ライブラリー（野菜花き類の病虫害、イチゴの病害）に掲載しているので参考にしてください。</p> <p>URL : <a href="https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/433111.pdf">https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/433111.pdf</a></p>
-------	---